成人看護学実習における実習指導者の指導行動の変化及び学生からの評価

著者	村口 孝子，平野 裕美，木村 由里，前田 陽子
雑誌名	鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要
号	85
ページ	61-72
発行年	2022-07-01
出版者	鳥取看護大学・鳥取短期大学
ISSN	2189-8335
URL	http://doi.org/10.24793/00000386

Creative Commons : 表示 - 非営利 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/deed.ja

〈資料〉

成人看護学実習における実習指導者の指導行動の変化及び学生からの評価

村　口　孝　子・平　野　裕　美・木　村　由　里・前　田　陽　子

Takako MURAGUCHI, Hiromi HIRANO, Yuri KIMURA, Yoko MAETA :
Changes in Teaching Behavior of Practical Training Instructors in Adult Nursing Practice and Evaluation from Students

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要　第85号　抜刷

2022年 7月

〈資料〉

成人看護学実習における実習指導者の指導行動の変化及び学生からの評価

村　口　孝　子[1]・平　野　裕　美[1]・木　村　由　里[1]・前　田　陽　子[1]

Takako MURAGUCHI, Hiromi HIRANO, Yuri KIMURA, Yoko MAETA :
Changes in Teaching Behavior of Practical Training Instructors in Adult Nursing Practice and Evaluation from Students

本研究では，3 年間の成人看護学実習の前後，実習指導者の実習指導行動がどのように変化したのか，また，実際指導を受けている学生が実習指導をどのように評価しているのか調査した．分析した結果から，指導者は学生の理解に努め指導に当たっていたが，学生は指導者が思っている以上に緊張が強く，指導者の指導を十分に受け入れていなかった．指導者は指導が十分にできていないと感じていたが，学生は実践家としての役割モデルとして指導を受け止めていたことが考えられた．

キーワード：指導行動評価　成人看護学実習　臨地実習指導者　学生評価

はじめに

臨地実習は，看護学教育において看護実践能力を育成する上で非常に重要な科目であり，かつ最も効果的な授業形態である．看護学教育の在り方に関する検討会によると，看護の臨地実習は，看護職者が行う実践の中に学生が身を置き，看護職者の立場でケアを行うことである．この学習過程では，学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ，看護方法を習得する．看護の方法について，「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階に到達させるために臨地実習は不可欠な過程であると報告している．また，同検討会は，「学生自ら看護行為を行うという過程で援助的人間関係能力が育まれる」と述べている[1)]．

池西ら[2)]は，臨地実習を「学習者と対象（患者），学習者と実習指導者・教員，対象（患者）と教員・実習指導者が相互に関係しあって，対象の持つ健康上のニーズに対応していくことを学ぶ経験型の授業である」と定義している．また，藤岡ら[3)]は，「指導者が学生にあたえる影響は大きく，指導者自身の考えかた，態度，学習への動機づけなどが学生の実習目標達成に向けての意欲，自主性に影響し，実習成果についての学生の満足の側面にも大きな影響を与える」と述べている．学生にとっての効果的な学びを提供するためには，実習環境の中で教員や実習指導者が意図的にかかわること，実習指導者各々が実習目的や役割を理解し，教員はそれぞれの施設の特徴を把握することや，調整能力が要求され，連携・協働して学生指導にあたる事が大切であるとしている．以上のように，臨地実習の意義や指導者のあり方について論じている文献は枚挙にいとまがない．

A 看護大学は，2017 年 8 月から A 県下の 15 病院を利用して臨地実習を行なっているが，施設の規模，看護水準は多岐に渡っている．近年，在院日数

1　鳥取看護大学看護学部看護学科

の短縮化により学生が実習期間を通して一人の患者を受け持つことが難しくなっており，患者の権利擁護などで限られた時間や実習になっているため，最大限の工夫をしてその効果を高める必要がある．このような現状の中，A看護大学の教員は地域や施設の特性を活かしつつ学生の学びの平等性を担保するため，教員は「現場常駐型」の実習指導体制をとり，実習指導者をはじめとする全スタッフとの連携・協働を重要視して実習指導にあたっている．

2015年に2017年度から成人看護学実習を受け入れる予定のA県下13施設の看護職者を対象とした臨地実習指導者の指導行動を分析し，報告した[4]．本研究では，3年間の成人看護学実習の指導体験を通して，実習指導者の指導行動がどのように変化したのか，明らかにしたいと考えた．また，実際の指導を受けている学生が，実習指導をどのように評価しているかも同時に調査することで，より効果的な学習環境を整えていきたいと考える．

1．研究目的

（1）成人看護学実習を担当する施設の実習指導者が，自分の実習指導行動をどのように評価しているのか，2015年（前回調査）と2020年との変化を比較し現状を明らかにする．

（2）学生が実習指導者の指導行動をどのように評価しているかを明らかにする．

（1），（2）の結果を踏まえ考察し，示唆を得る．

2．研究方法

（1） 研究デザイン

量的記述研究

（2） 研究対象者

2019年9月～2020年2月に，A看護大学の成人看護学実習指導に携わった15施設の実習指導者及び，同年に成人看護学実習を終了した3年生を対象とした．

（3）実習の概要

成人看護学実習は，3年生を対象とした後期実習科目である．成人看護学実習A（急性期：2単位）では，急性期・周手術期の患者を1名受け持ち外科系病棟で2週間の実習を行う．成人看護学実習B（慢性期：3単位）では，内科系病棟で慢性期疾患，終末期の患者を1名受け持ち3週間の実習を行うこととしている．実習施設は，A県全域であり，1施設4～8名で，1病棟あたり2～4名の学生で実習を行っている．なお学生グループは固定のメンバーではない．

（4） 用語の定義

1）臨地実習指導者：臨地実習を受け入れている病棟において学生と接する機会がある全ての看護職者．

2）専任指導者：実習期間の学生指導の中心的役割を担う看護職者．

3）兼任指導者：その日の看護ケアを中心に学生指導を行う看護職者．

4）専任と兼任：実習期間中，専任指導者と兼任指導者による学生指導が行われる体制．

（5） 調査期間

臨地実習指導者：2020年2月

学生：2020年3月

（6） 調査内容

1）対象者の属性

①臨地実習指導者の属性

年齢，看護師経験年数，実習指導者としての経験年数，実習指導者講習会受講の有無，所属部署の実習指導体制，実習指導において感じること（自由記述）について調査した．

②学生についての調査

回答対象の実習が成人看護学実習A（急性期）か成人看護学実習B（慢性期）かについて調査した．

2）評価尺度

①指導行動評価尺度はZimmerman & Westfall (1988) が開発した評価指標を参考に，石川ら (1991) が看護師の実習指導における看護者の指導行動の自己評価尺度を作成，中西[5]，影本[6]らが改変した日本語版（Effective Clinical Teaching Behaviors 評価スケール）（以下，ECTB）を用いた．この尺度は全43項目からなり，4つの指導要素（『実践的な指導：6項目』『理論的な指導：7項目』『学習意欲への刺激：13項目』『学生への理解：12項目』と『要素外の項目：5項目』について「5：そうだ」から「1：違う」の5段階リッカート尺度で得点化したもので，得点が高いほど指導者は効果的な指導を行い，またその行動をとる頻度が高いことを意味している．学生の場合は，得点が高いほど効果的な指導を受けたと感じ指導者を評価している．

（7） 質問紙の配布と回収

2019年度に，A看護大学の成人看護学実習を受けた15病院の看護部長および看護局長へ文書で研究協力を依頼した．研究協力の同意を得られた12施設へ質問紙を送付し，対象者への配布を依頼し，回収は質問紙を受け取って2週間以内に対象者が任意に投函する郵送方法で行った．

学生に対しては，すべての成人看護学実習が終了した後に，研究者が研究の目的・方法について説明したうえで研究協力への依頼を行い，質問紙を配布，1週間以内に施錠した回収ボックスに投函する方法で行った．

（8） 分析方法

統計処理，分析にはSPSS統計パッケージVer.24を使用した．各尺度の得点について記述統計の算出と二次集計（対応のないt検定）を行い，有意水準を5%未満とした．なお，本尺度は間隔尺度として取り扱われている．

1）臨地実習指導者

①臨地実習指導者のECTBの要素と，43項目の平均得点および標準偏差の算出

②2015年と2020年の臨地実習指導者のECTB平均得点の比較

2）学生

①ECTBの要素と，43項目の平均得点および標準偏差の算出

②学生と実習指導者のECTB平均得点の比較

（9） 倫理的配慮

本研究は鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理審査委員会で承認（承認番号2019-17）を得た後，実習指導者に対しては，研究協力を得られた施設の看護部（局）長宛に研究目的と意義，研究の方法，倫理的配慮を文書で説明し，協力を依頼した．研究対象者には，研究者の身分，研究の目的，プライバシーの保護に関する倫理的配慮について明記した文書を質問紙に添え，看護部（局）を通して配布した．倫理的配慮として，協力により得られたデータ及び結果は，研究目的以外に使用しない事を明記した．回答をもって同意したと見なした．個々の質問紙は対象者が記入後郵送法にて行った．

学生にする調査では，A看護大学学長に，研究の趣旨を説明し学生への調査協力依頼の承諾を得た．学生には，研究の目的，プライバシーの保護に関する倫理的配慮について明記した文書を質問紙に添え研究者が配布した．調査紙は，1階事務室カウンターの鍵のかかるアンケート回収箱に投函，回答をもって同意したと見なした．

3．結果

（1） 対象者の概要（表1）

1）実習指導者の概要

研究協力の同意が得られた12施設の看護師312名を対象とし，有効回答数は113名（36.2%）であった．看護師経験年数19.41±9.4年，実習指導者経験年数7.69±6.4年であった．実習指導者の実習指導体制は，専任のみが12名（10.6%），専任と兼任60

表 1. 対象者の属性

		平均	標準偏差
年齢（歳）		42.7	9.2
看護師経験（年）		19.4	9.4
実習指導経験（年）		7.7	6.4
		度数	%
成人実習受け入れの種類（n=102）	実習Ａ	48	42.5
	実習Ｂ	46	40.7
	実習Ａ・Ｂ	8	7.1
指導者講習会参加の有無（n=112）	ある	50	44.2
	ない	62	54.9
実習指導体制（n＝104）	専任のみ	12	10.6
	専任と兼任	60	53.1
	兼任のみ	32	28.3
任命されている実習指導数（n=105）	1～4 名	79	69.9
	5～9 名	17	15.0
	10 名以上	9	8.0

名（53.1%），兼任のみが 32 名（28.3%）であった．

2）学生の概要

Ａ看護大学の成人看護学実習Ａおよび成人看護学実習Ｂの履修が終了した学生 86 名に配布，回収率は 65 名（75%）であった．

（2） 2015 年（前回調査）と 2020 年（今回調査）の ECTB の平均得点（表 2）

2015 年と 2020 年の要素別平均値の比較を表 3 に示す．すべての要素で 2015 年と比較して 2020 年の平均得点が高く，中でも『学習意欲への刺激』は，有意に差が見られた（P＜0.05）．

43 項目の平均得点は，2015 年が 3.70±0.53，2020 年は 3.81±0.55 であった．項目別でみると，43 項目中 39 項目で 2020 年が ECTB の平均得点が高く，『理論的な指導』2 項目，『学生意欲の刺激』4 項目，『学生への理解』3 項目，『要素外の項目』1 項目の 10 項目において有意差を認めた（P＜0.05）．

2015 年は 4 点台が 7 項目，2020 年は 9 項目であったが，そのうち 5 項目は，『学生への理解』であった．

2015 年の項目と比較し，2020 年の平均得点の低かった項目は，(2015 年の平均得点を（　）内に示す．)「2. ケアの実施時には，学生に基本的な原則を確認している 3.98（4.18）」「19. より良い看護援助をするために，学生に文献を活用するように言っている 3.14（3.24）」「24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている 3.26（3.30）」「10. 学生がうまくやれた時には，そのことを伝えている 4.23（4.26）」の 4 項目であったが，いずれも有意な差は認められなかった．

（3） 実習指導者評価と学生評価

学生と実習指導者の要素別，項目別の比較を表 4 に示す．実習指導者，看護学生の要素別平均値を表 5 に示す．実習指導者の要素別で高い順に，『学生への理解 3.99±0.53』，『要素外項目 3.86±0.54』，『実践的な指導 3.82±0.58』，『学習意欲の刺激 3.73±0.54』，『理論的な指導 3.66±0.59』の順であった．

学生は『要素外項目 4.13±0.84』，『実践的な指導 4.03±0.81』，『学習意欲の刺激 3.92±0.85』，『理論的な指導 3.90±0.78』，『学生への理解 3.90±0.95』の順であった．『実践的な指導』，『理論的な指導』，『学習意欲の刺激』，『要素外項目』で実習指導者よりも看護学生の方が有意に高かった（P＜0.05）．『学生への理解』が実習指導者より平均得点が低かったが有意差は認めなかった．

（4） 実習指導者自己評価（2020 年）及び学生評価による ECTB 高得点項目

実習指導者の自己評価高得点項目は，すべての項目が『学生への理解』で，「10. 学生がうまくやれた時には，そのことを伝えている（4.23）」「9. 学生に対して思いやりのある姿勢でかかわっている（4.19）」「4. 学生に対し（裏表なく）素直である（4.15）」「11. 学生が緊張している時にはリラックスさせている（4.12）」「34. 学生の言うことを受け止めている（4.12）」であった．

学生の看護師評価高得点項目は，高い順に『要素外項目』の「32. 患者とよい人間関係をとっている（4.29）」，『実践的な指導』の「2. ケアの実施時には，学生に基本的な原則を確認している（4.22）」「6. 専門的な知識を学生に伝えるようにしている（4.18）」．

表 2. 臨地実習指導者の ECTB 平均得点　2015 年・2020 年

	2015 年（n＝175）		2020 年（n＝109）		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
実践的な指導	3.75	0.505	3.81	0.576	0.341
2. ケアの実施時には，学生に基本的な原則を確認していますか？	4.18	0.672	3.98	0.860	0.114
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしてくれていますか？	4.05	0.714	4.11	0.632	0.430
16. 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	3.56	0.722	3.67	0.690	0.218
21. 理論的内容や，既習の知識・技術などの実際に臨床の場で適用してみるように働きかけてくれていますか？	3.76	0.750	3.78	0.761	0.572
25. 記録物についてのアドバイスは，タイミングをつかんで行えていますか？	3.17	0.943	3.36	0.887	0.104
26. 必要と考えるときには，看護援助行動のお手本を学生に示してくれていますか？	3.81	0.665	3.95	0.708	0.061
理論的な指導	3.59	0.560	3.65	0.576	0.228
5. 学生に対し客観的な判断をしてくれていますか?	3.85	0.649	3.99	0.680	0.067
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	3.75	0.737	3.83	0.678	0.192
7. 学生の不足なところや欠点を，学生が適切に判断できるように働きかけてくれていますか？	3.72	0.665	3.85	0.706	0.044 ＊
14. 学生が，学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援してくれていますか？	3.81	0.663	3.84	0.701	0.464
19. より良い看護援助をするために，学生に文献を活用するように言ってくれていますか？	3.24	0.888	3.14	0.973	0.395
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言ってくれていますか？	3.49	0.820	3.67	0.853	0.042 ＊
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか？	3.30	0.891	3.26	0.874	0.689
学習意欲への刺激	3.57	0.494	3.72	0.533	0.013 ＊
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導してくれていますか？	3.70	0.756	3.74	0.761	0.442
15. 学生が‘看護は興味深い’と思えるような姿勢で仕事をしていますか？	3.56	0.721	3.69	0.663	0.127
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を，実習の過程に応じて明確に示してくれていますか？	3.62	0.762	3.67	0.726	0.703
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしてくれていますか？	3.39	0.659	3.51	0.733	0.094
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作ってくれていますか？	3.76	0.681	3.84	0.756	0.287
30. 実習グループの中で，学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけてくれていますか？	3.19	0.882	3.56	0.818	0.000 ＊
33. 学生が新しい状況や，今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけてくれていますか？	3.48	0.709	3.73	0.670	0.003 ＊

	2015 年（n＝175）		2020 年（n＝109）		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
学習意欲への刺激	3.57	0.494	3.72	0.533	0.013 ＊
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけてくれていますか？	3.27	0.727	3.65	0.729	0.000 ＊
37. 学生が何か選択に迷っている時，選択できるように援助してくれていますか？	3.71	0.615	3.74	0.739	0.529
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけてくれていますか？	3.50	0.777	3.63	0.798	0.083
41. 学生がうまくいかなかった時，そのことを学生自身が認めることができるよう働きかけてくれていますか？	3.52	0.684	3.74	0.719	0.004 ＊
42. 学生の受持ち患者様と，その患者様へのケアに関心を示してくれていますか？	3.93	0.681	4.03	0.721	0.124
43. 学生が学習目標を達成するために，適切な経験ができるように援助してくれていますか？	3.84	0.620	3.89	0.696	0.502
学生への理解	3.88	0.528	3.99	0.524	0.076
4. 学生に対して（裏表）なく素直ですか？	4.00	0.699	4.16	0.686	0.046 ＊
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか？	4.08	0.628	4.20	0.630	0.118
10. 学生がうまくやれた時には，そのことを伝えてくれていますか？	4.26	0.698	4.23	0.654	0.551
11. 学生が緊張している時には，リラックスさせるようにしてくれていますか？	4.12	0.683	4.13	0.693	0.921
13. 学生同士で自由な討論が出来るようにしてくれていますか？	3.53	0.847	3.66	0.761	0.115
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作ってくれていますか？	3.77	0.780	3.92	0.705	0.151
22. 学生に対する要求は，学生のレベルで無理のない要求ですか？	3.89	0.644	3.98	0.673	0.251
26. 学生一人一人と，良い人間関係をとるようにしてくれていますか？	3.81	0.732	3.98	0.778	0.035 ＊
28. 物事に対して柔軟に対応してくれていますか？	3.84	0.664	3.95	0.620	0.157
34. 学生の言うことを受け止めてくれていますか？	3.96	0.679	4.13	0.634	0.022 ＊
39. 指導の方法は統一していますか？	3.55	0.775	3.62	0.780	0.282
40. 学生に対して忍耐強い態度で接していますか？	3.79	0.751	3.91	0.698	0.216
要素外の項目	3.74	0.581	3.86	0.534	0.100
1. 学生に実習する上での情報を提供してくれていますか？	3.92	0.701	4.05	0.625	0.153
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしてくれていますか？	3.65	0.808	3.77	0.657	0.247
29. 実習の展開過程において，適切なアドバイスをしてくれていますか？	3.64	0.766	3.73	0.647	0.364
32. 患者と良い人間関係をとっていますか？	4.04	0.587	4.08	0.637	0.540
36. 担当教員と良い人間関係を保っていますか？	3.47	1.009	3.70	0.846	0.048 ＊

＊P＜0.05

表 3. 臨地実習指導者 2015 年と 2020 年要素別平均値の比較

	臨地実習指導者 (2015 年)	臨地実習指導者 (2020 年)	
	n＝175	n＝109	
実践的な指導	3.75 ± 0.50	3.81 ± 0.58	0.341
理論的な指導	3.59 ± 0.56	3.65 ± 0.58	0.228
学習意欲への刺激	3.57 ± 0.49	3.72 ± 0.53	0.013 ＊
学生への理解	3.88 ± 0.53	3.99 ± 0.52	0.076
要素外の項目	3.74 ± 0.58	3.86 ± 0.54	0.100

＊ P＜0.05

『要素外項目』の「グループカンファレンスや計画発表時に適切な助言をしている（4.15)」『学習意欲の刺激』の「42. 学生の受け持ち患者と，その患者へのケアに関心を示している（4.13)」であった.

（5） 実習指導者自己評価（2020 年）及び学生評価による ECTB 低得点項目

実習指導者の自己評価低得点は，『理論的指導』の「19. より良い看護援助をするために文献を活用するように言っている（3.10)」「24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている（3.27)」「25. 記録物についてのアドバイスは，タイミングをつかんで行えている(3.39)」.『学習意欲への刺激』の「23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている（3.51)」「30. 実習グループの中で，学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけている（3.58)」であった.

学生の看護師評価低得点項目は，低い順に『理論的指導』の「19. より良い看護援助をするために文献を活用するように言っている（3.33)」「25. 記録物についてのアドバイスは，タイミングをつかんで行えている（3.73)」,『学生への理解』の「39. 指導の方法は統一している（3.75)」,『理論的指導』の「24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている（3.76)」,『学生理解』の「11. 学生が緊張している時には，リラックスさせるようにしている（3.78)」「17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作ってくれる（3.78)」であった.

4．考察

（1） ECTB 得点について

2015 年の成人看護学実習開始前に行った調査では，A看護大学が臨地実習を行う施設の実習指導者の指導行動は，要素では『学生理解』の平均得点が高く，『理論的な指導』と『学習意欲への刺激』の平均点が他の要素と比較して低かったが，今回の調査では，ECTB の要素のすべてが前回調査より平均得点が高かった.

前回調査より実習指導者の平均得点が高かった要因としては，教員は意図的に意見交換の場を設けたり，臨地実習開始後，学生への指導場面に両者が立ち会うことで相互の指導が補完できるような状況を設定，実習指導の充実を図るうえで，成人実習要項，記録用紙の見直しに努めるなど具体的方法を試行してきたことが考えられる．2015 年の調査では，実習指導体制は兼任のみが 52.5％，専任と兼任が 44.1％，専任のみが 3.4％であったが，今回の調査では，兼任のみが 28.3％と減少し，専任と兼任が 53.1％，専任が 10.6％と増加していた. 吉川[7]は，「看護業務との兼任の場合には，実習指導に向ける時間や関心が制限され，教員との話し合いなどの協働活動の機会は少なく，連携しにくくなる」と述べているが，専任指導者，専任と兼任指導者が増える事により，学生に継続的にかかわることができ，教員も出来るだけ同じ施設に常駐するように努め，教員，学生とコミュニケーションが取りやすくなったこと，実習開始前，終了後に実習調整会議を行っており情報交換の効果，実習内容が病棟スタッフに周知されつつあることによるものではないかと考える.

今回の調査では，『学生への理解』が上位 5 項目を占めていた．前回調査と同様「10. 学生がうまくやれた時は，そのことを伝えている」が 43 項目中で一番高く（4.23)，「４．学生に対し裏表なく素直に接している」「９．学生に対して思いやりのある姿勢でかかわっている」「11. 学生が緊張している

表 4. 臨地実習指導者と学生の ECTB　平均得点

	指導者（n＝109）		学生（n＝65）			
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
実践的な指導	3.82	0.583	4.03	0.817	0.001	＊
2. ケアの実施時には，学生に基本的な原則を確認していますか？	4.02	0.871	4.22	0.889	0.030	＊
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしてくれていますか？	4.10	0.652	4.18	0.910	0.070	
16. 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	3.66	0.710	4.01	1.075	0.000	＊
21. 理論的内容や，既習の知識・技術などの実際に臨床の場で適用してみるように働きかけてくれていますか？	3.80	0.767	3.98	1.004	0.015	＊
25. 記録物についてのアドバイスは，タイミングをつかんで行えていますか？	3.39	0.860	3.73	1.133	0.001	＊
26. 必要と考えるときには，看護援助行動のお手本を学生に示してくれていますか？	3.94	0.684	4.09	0.952	0.009	＊
理論的な指導	3.66	0.587	3.90	0.777	0.002	＊
5. 学生に対し客観的な判断をしてくれていますか?	3.99	0.687	4.08	0.929	0.084	
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	3.83	0.674	4.10	0.888	0.001	＊
7. 学生の不足なところや欠点を，学生が適切に判断できるように働きかけてくれていますか?	3.88	0.677	4.11	0.942	0.001	＊
14. 学生が，学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援してくれていますか？	3.89	0.660	4.09	0.919	0.006	＊
19. より良い看護援助をするために，学生に文献を活用するように言ってくれていますか？	3.10	0.981	3.33	1.319	0.043	＊
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言ってくれていますか？	3.69	0.879	3.78	1.006	0.317	
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか？	3.27	0.868	3.76	1.062	0.000	＊
学習意欲への刺激	3.73	0.536	3.92	0.853	0.015	＊
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導してくれていますか？	3.79	0.734	4.02	1.042	0.001	＊
15. 学生が‘看護は興味深い’と思えるような姿勢で仕事をしていますか？	3.71	0.673	3.88	0.993	0.015	＊
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を，実習の過程に応じて明確に示してくれていますか？	3.71	0.724	3.81	1.042	0.071	
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしてくれていますか？	3.51	0.753	3.92	1.009	0.000	＊
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作ってくれていますか？	3.84	0.760	3.95	0.983	0.140	
30. 実習グループの中で，学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけてくれていますか?	3.58	0.785	3.85	1.053	0.006	＊
33. 学生が新しい状況や，今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけてくれていますか？	3.74	0.672	3.84	1.055	0.094	

	指導者（n＝109）		学生（n＝65）			
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
学習意欲への刺激	3.73	0.536	3.92	0.853	0.015	＊
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけてくれていますか？	3.64	0.727	3.82	1.048	0.031	＊
37. 学生が何か選択に迷っている時，選択できるように援助してくれていますか？	3.74	0.738	3.89	1.029	0.038	＊
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけてくれていますか？	3.63	0.801	3.92	0.961	0.005	＊
41. 学生がうまくいかなかった時，そのことを学生自身が認めることができるよう働きかけてくれていますか？	3.76	0.682	3.86	1.055	0.087	
42. 学生の受持ち患者様と，その患者様へのケアに関心を示してくれていますか？	4.03	0.726	4.13	0.918	0.090	
43. 学生が学習目標を達成するために，適切な経験ができるように援助してくれていますか？	3.93	0.676	4.08	0.949	0.014	＊
学生への理解	3.99	0.525	3.90	0.949	0.706	
4. 学生に対して（裏表）なく素直ですか？	4.15	0.692	3.85	1.201	0.334	
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか？	4.19	0.631	3.92	1.141	0.352	
10. 学生がうまくやれた時には，そのことを伝えてくれていますか？	4.23	0.662	3.89	1.073	0.046	＊
11. 学生が緊張している時には，リラックスさせるようにしてくれていますか？	4.12	0.703	3.78	1.042	0.030	＊
13. 学生同士で自由な討論が出来るようにしてくれていますか？	3.65	0.774	4.05	0.963	0.000	＊
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作ってくれていますか？	3.94	0.692	3.78	1.202	0.917	
22. 学生に対する要求は，学生のレベルで無理のない要求ですか？	3.98	0.680	3.98	0.964	0.483	
26. 学生一人一人と，良い人間関係をとるようにしてくれていますか？	3.98	0.770	3.83	1.189	0.978	
28. 物事に対して柔軟に対応してくれていますか？	3.94	0.628	4.02	1.019	0.062	
34. 学生の言うことを受け止めてくれていますか？	4.12	0.634	4.10	0.955	0.467	
39. 指導の方法は統一していますか？	3.61	0.794	3.75	1.214	0.027	＊
40. 学生に対して忍耐強い態度で接していますか？	3.92	0.682	3.87	1.144	0.435	
要素外の項目	3.86	0.537	4.13	0.846	0.000	＊
1. 学生に実習する上での情報を提供してくれていますか？	4.06	0.596	4.05	1.066	0.117	
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしてくれていますか？	3.78	0.660	4.15	1.035	0.000	＊
29. 実習の展開過程において，適切なアドバイスをしてくれていますか？	3.75	0.643	4.13	0.960	0.000	＊
32. 患者と良い人間関係をとっていますか？	4.07	0.648	4.29	0.893	0.002	＊
36. 担当教員と良い人間関係を保っていますか？	3.68	0.859	4.01	1.015	0.001	＊

＊P＜0.05

表5. 臨地実習指導者評価と学生評価の要素別平均値の比較

	臨地実習指導者 (n=109)	学生評価 (n=65)	
実践的な指導	3.82±0.58	4.03±0.82	0.001 ＊
理論的な指導	3.66±0.59	3.90±0.78	0.002 ＊
学習意欲への刺激	3.73±0.54	3.92±0.85	0.015 ＊
学生への理解	3.99±0.53	3.90±0.95	0.706
要素外の項目	3.86±0.54	4.13±0.84	0.000 ＊

＊ P＜0.05

時にはリラックスさせる」「10. 学生がうまくやれた時にはそのことを伝えている」と実習指導者は自己評価をしていた. 前回調査で,「2. ケアの実施時には, 学生に基本的な原則を確認している」は, 2番目に平均得点が高かったが, 今回の調査では平均得点が下がっており, この原因として, 教員が「現場常駐型」の実習指導体制をとり, 実習指導者と連携をとりながら臨地実習をすすめているためであることが推測される.

（2） 実習指導者評価と学生評価

実習指導者と学生との要素別平均得点の比較では,『学生への理解』において, 学生の平均得点が低い一方で, 実習指導者にとっては最も高く, 先行研究（山本[8]・石井[9]他）と同様の結果であった. A看護大学の臨地実習, 領域実習ごとに異なる病院・病棟でおこなわれるため, 学生は指導者・教員・患者との人間関係をそのつど新たに構築する必要があり, また, 各施設でそれぞれ異なる物品および患者ケアの方法に従わなければならない. このような学習環境においては, 実習指導者が感じている以上に学生の緊張感・不安感が強く, 特に知識, 技術の未成熟な学生ではその傾向が著しいと考えられる. その結果, ECTBの平均得点が実習指導者よりも低くなったものと推測される. 実習指導者が感じている以上に学生は緊張感が強いために, 実習指導者より低い結果になったと考える. 浦ら[10]によると,「指導者の教授活動の中で学生理解・支援的態度」が学生の学びと最も関連があり, 指導者の指導態度そのものが, 看護者に重要な誠実な態度や, 看護に対する考えなどの学びにつながっていると述べており, さらに蔵屋敷[11]は, 学生の意思を尊重し, 気軽に質問できる雰囲気をつくること, 学生に思いやりのある姿勢や忍耐強い態度で接するなど, 人的環境を整える必要があると述べている.

今回の調査では. 実習指導者が思っている以上に学生は緊張し, 不安を抱えて実習に臨んでいることが示唆され, 実習指導者と教員で精神的サポートを行うことが今後の課題であることが明らかとなった.

学生は実習指導者について, 患者とよい人間関係をとり, ケアの実施時には, 学生に基本的な原則を確認し, 専門的な知識を学生に伝え, グループカンファレンスや計画発表時に適切な助言をし, 学生の受け持ち患者と, その患者へのケアに関心を示し, 学生の不足なところや欠点を改善できるように働きかけていると捉らえ, 実践家としての役割モデルとして実習指導者を受け止めていた. 藤本ら[12]は, 学生が求める指導者は【高い看護実践能力】【看護実践に関する教育能力】【意欲向上の支援】【看護実践への方向付け】を求めていると指摘しており, 患者をより理解している看護師から指導を受けることにより, 学生の意欲向上に繋がり, 実習指導者のよい看護ケアをみることで, 学生は看護のすばらしさを体験し, 看護が対象にとってどのような意味をもつのか理解でき, 指導者の指導をよい看護モデルとして認識できるようになると述べている. そのため実習指導者は, 今ここで起きている患者の現象や実習指導者が提供した看護について, 学生が学習者として経験していることに, 意味づけができるような声かけ, 言葉にして伝えていくことが重要であると考える.

実習指導者（2020年）及び学生評価によるECTB低得点項目は, 実習指導者, 学生とともに, 文献を活用した実習記録へのアドバイス, 理論的な指導が行われていないことを示唆するものであり, 先行文献[13][14]と同様な結果であった. 指導者は看護業務を行いながら指導にあたっているため余裕がな

く，学生の日々の目標を達成させることが精一杯で，タイミングを見計らった指導ができていないのが現状だと考えられる．記録用紙については，実習開始後，記録の内容，用紙の改善を行い，学生が思考しながら記載できるように形式を改善したことで，教員も学生の思考過程を理解したうえで個別性を踏まえた指導が可能になったと言える．実習指導者が指導した内容を学生が理解できているか確認するためにも，指導者に意図的に記録をみてもらうように，調整することが必要であることが示唆された．

今回の調査では，学生の標準偏差が大きく，学生はそれぞれの施設の指導者，または，病棟によって受ける指導が違うと評価していると考えられる．二十軒[15]は，実習指導者が指導の視点をどこにおいて役割に取り組むかは，それぞれの病院と実習を行う学校側との考え方や関係性もあり，病院の組織風土も関係すると述べている．指導者と教員は実習前に十分な打ち合わせを行い，学生に何を学ばせるのか，実習目標・到達度を共有する必要があると考える．一方，指導者の標準偏差は学生の回答に比して大きくなかった．

これは，実習指導者は研修や現任教育で学生指導について学んでいるため，施設は異なっても，似通った指導観をもち指導しているためである．

ECTB の評価は，4.0 の「だいたいそうである」が通常の評価（影本ら）[16]とされているが今回の調査では，通常の評価より低い傾向であった．実習指導者は多忙な業務の中での実習指導であり，実際に学生が理解できているかわからない．また実習終了後タイムリーな実習評価や，実習指導者との個別な評価ができていない．実習指導者の指導に対して評価がされていないために，自信のなさにつながり，指導者が自身の力量を過少評価したなどの理由から，ECTB 得点が低い傾向であったのではないかと推測される．今後は，実習指導者と看護教員が適時に実習目標の達成状況，実習環境，指導の方向性について話し合い，実習指導者と実習目標・到達度を共有する必要がある．

教員は「現場常駐型」の実習指導体制の利点をいかし，指導者が実践する看護援助の場面に学生が参加できるように，指導者・学生間を橋渡しをすることが大切である．また，学生は緊張が強いため指導者の意図が伝わりにくいため，教員は指導者の思いを汲み取り，実習をすすめていく必要がある．

5．おわりに

成人看護実習に関わる実習指導者の実習指導行動を日本語版 ECTB を用いて調査をおこなった．その結果以下の示唆を得た．

1）学生は，指導者が思っている以上に緊張して実習を行っており，緊張が取れるように精神的サポートが必要である．

2）学生は，文献の活用，記録へのアドバイスが不十分であるととらえており，指導者の自己評価からも指導が出来ていない事がわかった．今後，記録を意図的に見てもらえるように，教員が働きかけ，調整することが必要である．

3）学生に何を学ばせるのか，実習目標・到達度を指導者と共有する必要がある．

謝辞

本研究の質問紙調査にご協力頂きました看護師の皆さま，学生の皆さまに心より感謝を申し上げます．

引用・参考文献

1）文部科学省：「看護教育の在り方に関する検討会報告　Ⅲ臨地実習指導体制と新卒者の支援」，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm（2022. 03. 10）．

2）池西静枝・石東佳子『臨地実習ガイダンス看護学生が現場で輝く支援のために』第 1 版，医学書院，2017，p. 11.

3）藤岡完治・屋宜譜美子『看護教育講座 6　看護

教員と臨地実習指導者』第1版，医学書院，2004.

4）村口孝子ほか「成人看護学実習における臨地実習指導者の指導行動の評価に関する研究」，『鳥取看護大学･鳥取短期大学研究紀要』第74号(2017)，pp. 1-13.

5）中西啓子ほか「Effective Clinical Teaching Behaviors（ECTB）評価スケールを用いた看護実習指導の分析―第1報―」，『川崎医療短期大学紀要』第22号（2002），pp. 19-24.

6）影本妙子ほか「Effective Clinical Teaching Behaviors（ECTB）評価スケールを用いた看護実習指導の分析―第2報―」，『川崎医療短期大学紀要』第24号（2004），pp. 19-24.

7）吉川洋子ほか「実習指導者―教員の協働状況とユニフィケーション活動との関係」，『島根県立大学出雲キャンパス紀要』第8巻（2013），pp. 97-104.

8）山本純子ほか「日本語版ECTBを用いた成人看護学実習の実習指導評価―看護学生と実習指導者，実習指導者の役割による比較から―」，『千里金蘭大学紀要』11（2014），pp. 121-129.

9）石井あゆみほか「成人看護学実習における効果的な実習指導行動の検討―ECTBを用いた学生評価と看護師自己評価の比較―」『千里金蘭大学紀要』16（2019），pp. 153-158.

10）浦綾子ほか「臨地実習における教授活動と学生の学びの関係―ECTBスケールを用いた学生の教員・指導者への評価から」，『日本看護学会論文集：看護教育』33号（2002），pp. 198-200.

11）蔵屋敷美紀「看護学生による領域別実習指導の評価―実習初期と後期の比較から―」『富山大学看護学会誌』第16巻1号（2019），pp. 63-71.

12）藤本裕二ほか「看護学生が臨地実習において教員および看護師に求める資質と能力」，『保健学研究』23(1)（2011），pp. 9-16.

13）同掲8).

14）同掲9).

15）二十軒温美「看護学先行研究からみた臨地実習指導者の現状と課題」,『園田学園女子大学論文集』第51号（2017），pp. 53-60.

16）影本妙子ほか「看護学生による臨地実習指導の評価―学生の特性に焦点をあてて―」，『川崎医療短期大学紀要』第30号（2010），pp. 17-22.